

「新生！「ふくい桜まつり」」

地域住民が楽しみ、誇りとなるまつりを目指して

平成29年9月6日、福井商工会議所は、観光産業・文化委員興業(株)社長)において、検討してきた「ふくい春まつりの魅力向上」に向けた提言を行った。提言の背景にあるのは、観光誘客の弱さや、メイン事業「越前時代行列」のマンネリ化、参加意欲の低下といった課題だ。今回の提言では、「ふくい春まつり」の本来の目的である県外からの観光客増加を実現するため、「まずは地域住民が参加し、楽しみ、愛する、誇りとなるまつり」を目標に、具体的なリニューアル案を提示した。

今回、「ふくい春まつり」を取り巻く福井の観光の現状に触れ、生まれ変わる春まつりを紹介する。



地域住民が楽しめる
まつりへとリニューアル

「ふくい春まつり」の始まりは、昭和61年の九十九橋架け替え工事の完成記念イベントだ。時代行列をはじめ、三代夫婦渡り初め、長寿もちつき大会などの多種多様なイベントを開催し、盛況裡に終えた。以降、福井の観光資源として「ふくい春まつり」が毎年開催されるようになった。また、歴史的に足羽山や足羽川堤防にほんほりを灯す「ふくい桜まつり」が並行して開催されており、平成に入ってから両者が統合され、現在の春まつりの形となっている。



当所観光産業文化委員会の野坂委員長が東村市長に提言書を手渡した

以上にわたり長く続いてきた伝統あるまつりだが、「越前時代行列」は他地域の武者行列と比べて特筆すべき違いはなく、県外からの誘客を図るには至っていない。また、参加者からは、達成感など一定の評価を受けてはいたものの、むしろ参加への疲労感が強く聞こえてくる状況にある。

そこで今回の提言では、参加者が心から楽しめるまつりを目的として具体案を示した。時代行列とともに、日本のさくら名所百選にも選ばれた「足羽川・足羽山公園」をはじめとする福井の「桜」を押し出して、まつりを「ふくい桜まつり」へと改称。春まつりの期間中に桜をライトアップし、観光資源とし

ての福井の「桜」の魅力を上させる。

また、「女性」を主役にするこにより、地域と差別化された行列に変え、福井でしか見られない行事にするように「越前時代行列」の刷新を要望した。

これらの取り組みを中心に、福井の魅力を増やし、県外客の増加を図る。

「桜」と「女性」が
新しい春まつりのテーマ

「ダントツ」の桜づくり

福井市中心部を彩る足羽川堤防の桜並木は2・2kmの長さを誇り、見る者を圧倒させる。この桜は、昭和27年の福井商工会議所と福井観光協会による植樹によるもので、福井の名所として、福井市民に長らく親しまれてきた。しかし、全国各地の桜の名所それぞれが似たような景観であり、福井の桜も、観光資源として更なるブラッシュアップが必要だった。

そこで、「ふくい桜まつり」では、この桜並木にライトアップやイルミネーションを施し、圧倒的な美しさを演出する。新しい観光スポットとして「夜桜」を打ち出すことで、観光客を宿泊させ、翌日の観光につながる夜型観光による経済効果も狙う。また、ライトアップだけでなく、夜桜を楽しむまち歩きや、桜の観覧スペースを足羽河

「女性」を主役にした時代行列

地域の偉人に扮し、町中を練り歩く「越前時代行列」は桜まつりのメインイベントだ。しかし、武者行列は全国各地で開催されておき、県外客の誘客としての期待される効果は得られていない。そこで、「時代行列」



お市の方や浅井三姉妹は、激動の戦国時代にあって、懸命に生き抜き、後世に名を残した

男の世界」というような既成概念を打ち払い、福井らしい時代行列にするため、「女性」を主役にリニューアル。福井は戦国一の美女と謳われたお市の方や、その娘の浅井三姉妹に所縁があり、全国での知名度の高い彼女らアピールする。

(上) 他で真似できないライトアップを施し、全国有数の桜の名所とする。



(下) 今回から、お市の方や、浅井三姉妹は地元の方が務める。また、女性のみで隊列である「戦国姫」隊を出陣させ、「女性」を主役にした時代行列にする。



お市の方役を演じる新谷氏に 直撃インタビュー

「地域住民が参加し、楽しみ、愛し、誇りとなる」まつりを目指し、メインキャストも地元を代表する方を選抜。お市の方役には、「2018ミス・ユニバース・ジャパン」の福井県代表で、福井県内の病院で医師として勤務する新谷万智子氏が起用された。新谷氏は石川県小松市の出身だが、祖父母は福井の出身で、幼少期はよく福井を訪れていた。その時に越前時代行列も何度か見たことがあり、「『金沢百万石まつり』よりも『越前時代行列』の方がなじみ深い」と福井との縁を語る。



お市の方役 新谷 万智子氏

新谷氏は福井の女性の印象

を「いきいきして輝いている」と感じている。共働きの率が全国一位であり、女性の活躍が進む福井で仕事・生活をする中で、「女性の社会進出をより進めていきたい」と強い信念を持っている。「お市の方は男社会の戦国時代において、翻弄されながらも立派に生きた女性。そのような人を演じることは光栄で、私もお市の方のように社会の中で女性が表舞台で活躍する旗振り役として励みたい」と意気込みを力強く語った。

体験型観光プランで 知られざる地域の魅力に迫る

観光に求められるのは 地域特有の文化・特徴

同じく福井の春の観光シーズンの誘客を図るため福井商工会議所では福井市の企業等を対象に「体験型観光ビジネス参入実践会」を開催。(株)デザインスタジオ・ビネン取締役の坂田守史氏をコーディネーターに、体験型観光プランを作成中だ。



和ろうそくの灯火は昔から日本人に愛されてきた

「火のゆらぎ」がもたらす癒し
体験型観光プランを作成している企業の一つである(株)小黒屋商店(福井市順化2-15-9、大津伊平社長)は江戸時代より続く和ろうそくの老舗メーカーだ。同社の歴史は非常に長く、慶応元年(1865年)にはすでに営業しており、記録が残っていないものの創業はそれ以前に遡る。同社の主力商品は仏壇用の和ろうそく。福井は歴史的に仏教文化が深く根付いている地域であり、法事や日々のお勤めなどでよく利用されている。同社が伝えたい和ろうそくの魅力は「火のゆらぎ」だ。ろうそくの火のゆらめきには癒しの効果があり、昔は「仏様のほほ



(株)小黒屋商店 大津 康代氏

えみ」に例えられていた。このゆらめきはろうそくの芯を和紙で作ることで発生させており、糸で芯を作る西欧のキャンドルでは見られないものだ。しかし、電力の普及に伴い、ろうそくが日常で使われる機会が減少。ろうそくに似せた電球が仏壇用として販売されるなど、ろうそく市場を侵食した。これを受け、同社も従来のろうそくに加えて、洋風のろうそくや、カジュアルなインテリアとして使える小さなろうそくなど顧客のニーズに応じて営業を続けている。

また、同社では体験講座の開催を続けてきた。和ろうそくのろうそく作りやうんちくを通して、ろうそくの魅力を伝えてい



(株)デザインスタジオ・ビネン 取締役 坂田 守史氏

北陸新幹線の福井開業で、県内への観光客の増加が見込まれているが、既に開業した富山と金沢を比較すると、宿泊者数に大きな違いがある。金沢市の宿泊者数が大きく伸びているのに比べ、富山県の宿泊者数は新幹線開業前とあまり変わっていない。新幹線が開業するからといって確実に観光客が増えるとの保証はどこにもない。

坂田氏は「観光とは『その土地の文化的な特徴を感じに行くもの』であり、今後福井の観光に求められるのは『福井の人々がこれまで積み重ねてきた営みや地域の特徴』をどれだけ伝えられるかだ」とこれからの課題を語る。一言で観光客向けの事業といっても、ニーズに合ったものを作り出すのは困難だ。日

る。講座を続ける中で課題となったのが、回を重ねるにつれ、参加者に合わせて内容が難化していったことだ。「このままでは敷居が高くなり新しい参加者が入りにくくなる」という同社の危惧が今回の体験型観光ビジネス参入実践会への参加のきっかけとなった。

現在企画しているプランは、ろうそくの絵付け講座だ。福井をはじめ、雪深く、冬は景色が一面の白となる北国では、「仏様に少しでも花を御供えしたい」という心が絵ろうそくの文化を生んだ。絵付け講座ではこうした文化を学び、その地域でしかできない体験をすることが可能だ。

今回の体験型観光プラン作成を進める大津康代氏は、「仏壇用のろうそくしか扱わない店というイメージを変えていきたい。短時間で体験でき、福井の文化を身近に感じられるものを提供し、これをきっかけに地域内外の方に和ろうそくの魅力を伝えたい」と熱く思いを語った。

常と観光という非日常は感覚が離れており、計画を作る側が観光客に漠然としたイメージしか持てない場合が多いからだ。

今回の「体験型観光ビジネス参入実践会」では、「自分たちが楽しめないものは、お客様にも楽しんでもらえない」という共通認識を持ち、それぞれの企業のこだわりや歴史などを交えて、魅力を伝える側も楽しく提供できる体験プランを計画中だ。このプランは、「ふくい桜まつり」と同様に「まずは福井の住民に楽しんでもらう」ことが目的。地域の住民に普段は見えにくい福井の魅力や面白さを伝え、結果を検証しながら県外客に福井の魅力を楽しく伝えるプランの作成を進めていく。



体験型観光ビジネス参入実践会には様々な業種の企業が参加し、積極的な意見交換がなされた

自らが心から楽しんでこそ 観光客に魅力が伝わる

観光客が求めているのは、その地域に根付く食、歴史、生活など未知の文化との出会いだ。そのために必要なのは、地域独自の経験や地元の住民との交流で、従来の「観光ビジネス」からは生み出されないものだ。そこを訪れ、体験や交流に共感した人々がSNS等で発する情報新たな観光客を呼び込む。そのためには住民自らが地域の魅力を楽しみ、その魅力をそれなりの表現で訪れる人々に伝えることが不可欠だ。観光客が求める「未知の宝」は、我々が気づかないだけでずっと身近にあるはずだ。

今年の「ふくい桜まつり」は3月31日から4月15日まで開催される。生まれ変わった「ふくい桜まつり」とともに「体験型観光」で福井の文化や歴史、産業を知り、新たな福井の魅力を楽しく頂きたい。